血液事業投稿規定

1．内　容　本誌は，血液事業に貢献する論文と，血液事業に関する情報，学会会員のための会報・学会諸規定等を掲載する。
原稿の種類は，総説，原著，報告，速報，編集室への手紙，その他とする。「原著」は新知見を含んでいることを条件とし，「報告」は新知見にこだわらず，実態調査など血液事業の実務に資する客観的情報が含まれているものとする。また，「編集室への手紙」では掲載論文，その他の血液事業に関する意見を掲載する。

2．投稿資格　本誌への投稿者は，本会会員に限る。ただし共著の場合は，共著者の過半数以上の者が本会会員であることを必要とする。

3．論文の受理　論文原稿は，必ず所属長または上司に確認後に事務局あて送付する。編集委員長は受付年月日を論文原稿に明記のうえ受理し，提出者には受付年月日を記した原稿受領書を交付する。

4．論文の掲載
（1）原稿掲載の採否は，査読結果にしたがって編集委員会が決定する。論文は本誌の電子投稿サイトから送信する。
（2）一般原稿の掲載は，完全稿の受付け順に掲載することを原則とし，編集上の都合によって若干変更することがある。
（3）他誌に既発表あるいは投稿中の論文は掲載しない。
（4）本誌に掲載された全ての資料の著作権は，日本血液事業学会に帰属するものとする。

5．利益相反（Conflict of Interest, COI）
筆頭著者は共著者のCOIを確認の上、投稿すること。
開示方法COI申告開示がない場合は、本文中に「COI開示について特になし」と記載すること。
COI申告開示がある場合は、報酬、株式利益、講演料、寄付金、旅費等を記入すること。

6．執筆要領
（1）原稿はＡ４版の用紙を用い，頁を必ず記入し，第１頁には，和文の表題，著者名，所属，ついで英文の表題，著者名，所属を記入する。
（2）原稿第２頁以下は，抄録（400字以内），キーワード（英語で４個以内），本文，文献の順に配列する。また，英文抄録（300語以内）を付けることもできる。
（3）論文の長さの制限：

	文字数（文献不含）	写真・図・表
総説	8000字以内	10個以内
原著	6000字以内	10個以内
報告	4000字以内	５個以内
速報	1600字以内	２個以内
編集室への手紙	1600字以内	２個以内

本文400字詰原稿は本誌１頁に概ね４，５枚入る。図表の大きさとそのスペースについては本誌既刊号を参照のこと。
（4）原稿は，口語体，常用漢字，新仮名づかい，平仮名交じり，楷書とする。原則としてパソコン（ワープロ）を使用し，Ａ４版の白紙に横書きで字間・行間を十分にあけ，一枚当たり400字（20字×20行）とする。
（5）文中の英語は，英文小文字とする。ただし，文頭および固有名詞は大文字で書き始めること。独語は独文法に従うこと。いずれの場合も欧文はタイプまたはブロック書体で書くこと。
（6）数字はアラビア数字を用い，度量衡の単位はm，cm，mm，μm：L，mL，μL，fL：g，mg，μg，ng，pg，fg，N／10などを用いる。
（7）図表：簡潔明快を旨とし，内容が本文と重複するのを避ける。図（写真を含む）および表は引用順にそれぞれ番号を付け，挿入箇所は本文中および欄外に明記する。図表には必ず表題をつける。その大きさはＡ４版を越えないこと，図はそのまま製版できるように墨入れする。
（8）文献：本文に引用した順序に番号を付け配列する。文献の記載法は著者名（著者が３名以上の場合は筆頭者名のみを記し，共著者名は省略して“ほか”または“*et al.*”とする）：論文題名，雑誌名（略号は医学中央雑誌またはIndex Medicusに準拠する），巻：頁～頁，年号の順とし，単行本の場合は著者名：題名，書名，編集者名，版数，頁～頁，発行書店，発行地，年号の順とする。
（9）論文中にたびたび繰り返される語は，略語を用いてよいが，最初のときは，正式の語を用い記載してその旨を断ること。
（10）個人情報の保護に関する法律を遵守し、献血者や患者のプライバシー保護に配慮し，献血者や患者が特定されないよう以下の項目について留意しなければならない。
ア　献血者や患者個人が特定可能な氏名，採血番号，製造番号，入院番号，イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
イ　献血者や患者の住所は記載しない。ただし，副反応や疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする。（神奈川県，横浜市など）
ウ　日付は，臨床経過を知る上で必要となることが多いので，個人が特定できないと判断される場合は記載してよい。
エ　他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合は，診療科名は記載しない。
オ　すでに他院などで診断・治療を受けている場合，その施設名ならびに住所地を記載しない。ただし，救急医療などで搬送もとの記載が不可欠の場合はこの限りではない。
カ　顔写真を掲示する際は目を隠す。眼疾患の場合は，顔全体が分からないよう眼球のみの拡大写真とする。
キ　症例を特定できる生検，剖検，画像情報に含まれる番号などは削除する。
ク　以上の配慮をしても個人が特定できる可能性がある場合は，発表に関する同意を献血者や患者自身（または遺族か代理人，小児では保護者）から得る。
ケ　人を対象とする生命科学･医学系研究では,「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」による規定を遵守する。

7．校　正　校正は再校まで著者に依頼する。校正はすみやかに完了し，組版面積に影響を与えないよう留意する。

8．印刷費
（1）投稿論文の掲載料は無料とし，別冊20部を贈呈する。著者の希望により別冊20部以上を必要とする場合は50部単位で作成し，その費用は著者の負担とする。カラー写真掲載・アート紙希望などの場合は，著者の実費負担とする。
（2）総会特別講演およびシンポジウム抄録の別冊を必要とする場合は著者の負担とし，前記により取り扱う。ただし，総会一般講演の別冊は作成しない。

昭和53年３月20日制定
平成19年10月　３日一部改訂
平成24年10月16日一部改訂
平成29年10月30日一部改訂
令和７年１月１日一部改訂

原稿送付先　〒105-8521　東京都港区芝大門１-１-３
日本赤十字社血液事業本部内
日本血液事業学会事務局

Presented by Medical*Online

投稿用

論　文　申　込　書

「血液事業」（Vol.　　No.　　）				
題名	（英文）			
	本文　　枚	写真（カラーF）（白黒　F）（紙　焼）　　枚	図　　枚	表　　枚
氏名	（ローマ字）			
所属	（英文）			
役　職				
機関誌（別冊）送付先	〒			
連絡先	〒 Mail Address　　@ Tel（　　）　　—			
別　冊	有料　　部申込　（50 部単位）			

切り取り線

論文申込にあたってのお願い

1. 論文のお申し込みに際しては、投稿規定（機関誌に掲載）をごらんください。特に論文の書き方は、投稿規定に従ってください。
2. 原稿は原則としてお返しいたしませんので、必ずコピーをお取りください。
3. 原稿にこの論文申込書を必ず添えて、学会事務局にお送りください。
4. 別冊を 20 部無料進呈いたします。それ以外で有料購入を希望される方は 50 部単位でお申し込みください。

日本血液事業学会
事務局　〒 105-8521　東京都港区芝大門 1－1－3
日本赤十字社血液事業本部内
TEL (03) 3438-1311

Presented by Medical*Online

学術論文作成の手引き

日本血液事業学会編集委員会

この手引きは，学術論文を初めて書く人や書き慣れていない人を対象として作成した。専門の研究者ではない血液事業の日常業務に従事する人にとって，学術論文を書くことは不慣れな点が多いと推察される。そのような人に論文作成のルールや手法を理解してもらえれば，論文作成がより身近なものになり，本学会誌への投稿も増加すると期待される。また，血液事業に従事する職員が何らかの研究活動にかかわり，その研究成果を論文の形にして公表することは，血液事業に貢献するのみならず，本人の業績にもなり，またその経験は自信となって，個人の成長に寄与する。特に，血液事業学会総会において発表した研究は，できるだけ学術論文として投稿することが望ましい。また，指導的な立場にある共著者は，本手引きを参考にして，著者の論文作成に協力していただきたい。

学術論文の主体は原著論文である。原著とは，それまでに知られていない新しいことを含む論文である。原著論文では，通常，緒言，研究対象(材料)と方法，結果，考察，謝辞，文献，図表の順に整理して記述する。別に抄録(要旨)として，論文の全体像が理解できるような概要を最初に添付する。報告についてもこの様式に準じた書き方が求められる。

論文を書く目的は，自分の行った研究成果を広く世に問い，評価を受けることである。論文として公表されることは，知的財産として記録され，著者の学問的業績となる。個別の論文作成上重要なことは，学術論文を書く目的をはっきりさせ，十分なエビデンスに基づき，社会に役立つ情報を提供できるように記述することである。また，投稿規定を順守し，文章は簡潔明瞭で，独りよがりの表現にならぬようにしなければならない。

以下に論文の書き方の基本的なルールを項目ごとに説明する。

1．タイトル

何を伝えたいかがひと目でわかるようなタイトルをつける。タイトルが長い場合は，「○○センターにおける採血従事者の手袋着用―献血者ごと交換へのプロセス―」のように，主題と副題に分けて表記してもよい。論文の中身が伝わるような具体的な表現で，たとえば，「末梢血を用いたヘモグロビン値測定は１滴目で可能である」のように，読者の関心を惹くようなものが望ましい。「・・・の研究」とか「・・・の効果について」等の表現は，無難ではあるが具体的な中身が伝わりにくい。

2．著者と所属

著者，共著者の氏名と所属施設を記載する。共著者は原則として当該研究に寄与した者とする。共著者が複数施設にまたがる場合は，最初に著者名，共著者名を肩番号1)，2)，3) 等を付して記載し，所属施設名を番号順にまとめて記載する。

3．抄録(要旨)

研究の背景，目的，方法，結果，結論の順に，簡潔に記述する。重要な数値は記載しておくのが望ましい。要旨のみに目を通す読者も多いので，これだけで論文の全体が把握できるようにするべきである。和文抄録に加えて英文の抄録をつけることができる。本論文を検索するために，適切なキーワードを文章中から選び，英語で記載する。

Presented by Medical*Online

4．緒　言

緒言には，当該研究の背景や目的を述べ，あるいは仮説を提示する。

5．対象および方法

研究方法が一般的に行われる周知のものである場合は，簡単な記載でよいが，著者が開発した独自の研究方法や調査方法を用いた場合は，興味を持った読者が追試（再現）できるように，対象（材料），機器，試薬，操作法等の詳細を具体的に記載する必要がある。また，データ解析に用いられた統計手法を明記する。

献血者や患者に関わる情報に関しては，投稿規定の執筆要領10）を参考にし，個人が特定されないように記述について十分に配慮をする。さらに，倫理委員会の承認を必要とする研究については，その承認が得られていることを記載する。

6．結　果

研究の結果のみを主観を交えずに記載する。項目立てをして記述し，主要な結果は図・表にまとめると理解しやすい。

7．考　察

緒言で述べた仮説を再度提示して，その仮説をどのように証明しどのように結論に至ったかを記述する。結果の繰り返しにならぬように注意し，得られた結果以上のことを主張しない。関連する先行研究を必要に応じて紹介し，文献を引用する場合は，その内容を主観が入らぬよう正確に記載する。考察の中に明確に結論を記載する。

8．謝　辞

共著者以外の人から研究や論文作成に協力を得た場合は，謝辞に協力者名，所属，協力内容を記載する。

9．文　献

本論文で参考にした主要な論文を挙げ，引用順に記載する。書き方は学会誌の投稿規定に従う。学会発表の抄録を引用することは避けることが望ましい。

10．図・表について

図･表には，それぞれ図１，図２，表１，表２のように番号を付ける。最初に，図の説明文（Figure legends）の頁を設けて，各図の番号およびタイトルと，必要であれば簡潔な説明文をつける。続いて各図および表ごとにそれぞれ１頁を当てて記載する。表の説明文は，各表の下に挿入する。図は印刷することを考えて単色（黒）で描く方が良い。また，写真は図に含める。

11．文体，用語，字体，表記，等について

・文体は文章語（書き言葉）とし，「である。」調に統一する。「です。」「ます。」調は使わない。「患者さま」や「献血していただく」のような敬語表現は不要である。
・用語を統一する。平成25年，平成25，H25年，等の混在は不適切。
・字体を統一する。2013年，２０１３年，等の混在は不適切。
・細菌名および遺伝子名はイタリック体（斜体文字）で表記する。

Presented by Medical*Online

・ひらがな書きをする副詞と接続詞の例
なお(×尚)，まず(×先ず)，なぜ(×何故)，もちろん(×勿論)，すなわち(×即ち)，また(×又)，ゆえに(×故に)，したがって(×従って)

12. 文章の書き方の参考
明快で簡潔な文章を書くために以下の点を心がける。
・センテンスをできるだけ短くする。
・きちんと句読点を入れて，何通りもの意味に解釈できるような文章を書かない。
・曖昧な表現をしない。日本語の受身形は表現が柔らかくなるが，意味は多少あいまいになる。「～と思われた」，「～と考えられる」，「～ではないかと思われる」のような表現より，「～である」，「～だと思う」，「～だと考える」のように，はっきり言い切る方がよい。
・「約」，「ほぼ」，「ぐらい」，「程度」，「たぶん」，「らしい」のようなぼかし言葉は最小限にする。

13. 論文執筆の参考となる「血液事業」掲載論文例
採血業務
［原著］　初回高校生における血管迷走神経反応(VVR)抑制への試み　35(4)，639-642，2013.
［原著］　無侵襲非観血型ヘモグロビン測定装置の精度の検討　35(1)，15-19，2012.
［原著］　全血採血針の針長に関する検討　34(3)，511-515，2011.

輸血副作用・検査・製剤業務
［原著］　まれな血小板特異抗体に起因したと考えられる血小板輸血不応答例　35(1)，9-13，2012.
［原著］　血小板製剤の外観検査の重要性について　34(3)，505-510，2011.
［報告］　濃厚血小板の単位に影響を与える血小板濃度測定工程の検証　35(1)，57-63，2012.

献血推進業務
［報告］　複数回献血クラブ会員増強への取り組みについて―サイト誘導装置の導入効果―　35(1)，65-68，2012.
［報告］　献血啓発としての学校出前講座の実践とその意義　34(4)，605-611，2012.
［報告］　献血協力団体への献血情報提供による効果的な献血受け入れの試み　34(3)，537-539，2011.

供給業務
［報告］　京都府における1単位赤血球製剤の受注と供給状況
―1単位製剤の必要本数と安定供給への課題―　34(4)，599-604，2012.
［報告］　沖縄県におけるABO不適合血小板製剤の供給状況について　34(3)，533-536，2011.
［報告］　緊急供給の適切な要請促進への取り組み　33(3)，329-334，2010.

Presented by Medical*Online